

## 芭蕉・蕪村・一茶の俳諧の形容詞の語構成

村田 菜穂子\*<sup>1</sup> 前川 武\*<sup>2</sup>Formation of Adjectives in Haikai of Basyou,  
Buson and Issa.Nahoko Murata\*<sup>1</sup> Takeshi Maekawa\*<sup>2</sup>

## キーワード

形容詞、語構成、語構造、俳諧、芭蕉、蕪村、一茶、結合タイプ、造語形式

## I はじめに

これまで、上代資料・八代集・中古散文作品から採取された形容詞について、それぞれの形容詞がどの資料でどのくらい使用されているかを対照語彙表の形にまとめ、その一方で、各形容詞について語構成を分析し、その結果を拙著『形容詞・形容動詞の語彙論的研究』<sup>(注1)</sup>において前稿①「古代語形容詞の語構成」として公表した。

その後、調査対象を軍記物語・今昔物語集から狂言・キリシタン資料、擬古物語、中世の日記・紀行文へと拡大し、これらから採取された形容詞の対照語彙表<sup>(注2)</sup>の公表を続けてきた。

これと並行して軍記物語・今昔物語集の形容詞の語構成についての分析結果をまとめ、「古代語形容詞の語構成」を増補する形とし、同時に、「古代語形容詞の語構成」公表後に気づいた見落としや誤りを修正して、上代から中世に至る資料から採取した形容詞の語構成の分析結果を前稿②「改訂・増補 古代語形容詞の語構成－上代～中世編－」<sup>(注3)</sup>として改めて公表し直した。続いて、狂言・キリシタン資料、擬古物語および中世の日記・紀行文の形容詞の語構成についての分析結果を前稿③「狂言・キリシタン資料の形容詞の語構成」<sup>(注4)</sup>、前稿④「擬古物語および中世の日記・紀行文の形容詞の語構成」<sup>(注5)</sup>として公表した。

さらに、前稿④に続く資料として、芭蕉・蕪村の俳諧を取り上げ、芭蕉・蕪村の俳諧に用いられた形容詞の出現数および語構成の分析結果を前稿⑤「芭蕉・蕪村の俳諧の形容詞の語構成」<sup>(注6)</sup>として公表した。

本稿では、前稿⑤公表後に発見された誤りを訂正するとともに、一茶の俳諧から抽出し

\*1 むらた なほこ：大阪国際大学国際関係研究所教授〈2017.7.7受理〉

\*2 まえかわ たけし：大阪国際大学短期大学部教授

た形容詞をつけ加えて、芭蕉・蕪村・一茶の俳諧に用いられた形容詞の出現数および語構成の分析結果を一覧表の形にして改めて報告するものである。

対象とした俳諧は「Ⅲ 調査に際して使用した資料」に挙げた索引・本文に基づくが、句数としては芭蕉のものが932句、蕪村のものが2782句、一茶のものが約18900句である。

分析の観点は、前稿①に示したが、主な観点は、[a] 語がどのような部分要素（語構成要素）に分けて捉えられるかという点（結合タイプ）と [b] 語がどのような造語成分から組み立てられているかという点（造語形式）である。なお、分析に関する詳細については、前稿①に拠りたい。

## Ⅱ 凡例

前稿⑤に従うが、改めて記載する。

### [1] 見出し語の配列

歴史的仮名遣いにより五十音順に配列する。

### [2] 見出し語形の統一

意味の違いに関係しない読み方・発音の違いは同一語とみなし合併して採る。同一語・別語の認定は『古語大事典』〔小学館〕・『日本国語大辞典』〔小学館〕に拠る。

例…ねむたし→ねぶたし、あひなし→あいなし等。

この他、今昔物語集（日本古典文学大系）には、「～+方ナシ」に対して、例えば、「可<sup>タト</sup>譬<sup>フベ</sup>キ方<sup>ハウ</sup>無<sup>カ</sup>シ」「可<sup>タト</sup>譬<sup>フベ</sup>キ方<sup>カタ</sup>無<sup>カ</sup>シ」のように、「方」の漢字に「ハウ」「カタ」の二通りよみが付されている。しかし、両者の使い分けに一定のルールが認められず、「ハウ」とよむ必然的理由が見出せない。また、これまでに取り上げた資料の中に「～+ハウナシ」という形容詞は一例も見られない。以上のようなことを鑑み、大系で「～+ハウナシ」とよみがなが付されている形容詞は「～+カタナシ」に含めた。

### [3] 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を介在させている語および接頭辞が付いた語の扱い

助詞・助動詞（補助動詞を含む）を介在させている語形、および接頭辞がついた語形は次のように扱った。

- (1) 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形が対象とした資料に存在する場合は、助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語と合併して採る。

例…いふかひもなし→いふかひなし、やるかたもなし→やるかたなし、  
なにたかし→なだかし等。

例…いはむかたなし・いふべきかたなし→いふかたなし、とりまうしがたし→とりがたし、ゆるされがたし→ゆるしがたし等。

- (2) 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形が対象とした資料に存在しない場合は、助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形を仮の語形として

設定し立てる。

例…うとましげもなし→うとましげなし、まじりもなし→まじりなし等。

例…かきつくさむかたなし→かきつくすかたなし、すべきかたなし・せむかたなし→するかたなし、えたりかしこし→えかしこし等。

(3) 接頭辞の付いた語の扱い

例…おんころたがひなし→ころたがひなし、おんころづよし→ころづよし

以上のように、接頭辞を外した語形で採る。

[4] 複合語の扱い<sup>(注7)</sup>

名詞+形容詞(例…おくふかし・かひなし)や動詞連用形+形容詞(例…ありがたし・はべりにくし)等は切り離さず複合的な単位として認め、一語として扱う方針によって形容詞を選出した。これは、形容詞の造語法として複合語の産出が新語形成の一端を担っている事実を重視したことに拠る。

[5] 新出

芭蕉、蕪村、または一茶の俳諧にて初めて出現した形容詞がわかるようにした。

新出形容詞のうち芭蕉の俳諧のみに出現したものには「芭蕉」と、蕪村の俳諧のみに出現したものは「蕪村」と、一茶の俳諧のみに出現したものは「一茶」と、芭蕉・蕪村の両方にのみ出現したものには「芭・蕪」と、芭蕉・一茶の両方にのみ出現したものは「芭・一」と、蕪村・一茶の両方にのみ出現したものは「蕪・一」と、芭蕉・蕪村・一茶のすべてに出現したものは「芭・蕪・一」と記した。

[6] 活用

各見出し語がそれぞれ何活用の形容詞であることを示したもの

[7] 漢字

各形容詞の主な意味を表すために適宜振ったもの

[8] 出現数

各形容詞の芭蕉、蕪村、または一茶の俳諧での出現数

[9] 十資料における出現状況

各見出し語がどの資料に使われているかを簡潔に示すべく、その見出し語が使われた資料に○を施した。

十資料とは、【上代資料】【八代集】【中古散文作品】【訓点資料】【今昔物語集】【軍記物語】【擬古物語】【中世の日記・紀行文】【狂言】【キリシタン物】を指す。(表中では、下線部で示したもので略記した)なお、各資料に含まれる作品は次のとおりである。

【上代資料】

『時代別国語大辞典上代編』に立項されている形容詞のうち、東歌・防人歌に使われている東国語方言の語や複合形容詞中にのみその存在が確認される語を除き、万葉集・古事記（仮名書き部分）・日本書紀（同）・風土記（同）・続日本紀宣命・祝詞に用例のあるものを上代形容詞として認めた。

【八代集】

『古今集』『後撰集』『拾遺集』『後拾遺集』『金葉集』『詞花集』『千載集』『新古今集』

【中古散文作品】

『竹取物語』『土佐日記』『伊勢物語』『平中物語』『大和物語』『多武峯少将物語』『篁物語』『宇津保物語』『蜻蛉日記』『落窪物語』『和泉式部日記』『枕草子』『源氏物語』『紫式部日記』『堤中納言物語』『夜の寝覚』『浜松中納言物語』『更級日記』『狭衣物語』『大鏡』『讃岐典侍日記』『とりかへばや物語』

【訓点資料】

『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』『神田本白氏文集卷第三・四』『高山寺本古往来』

【今昔物語集】

『今昔物語集』

【軍記物語】

『保元物語』『平治物語』『平家物語』

【擬古物語】

『松浦宮物語』『山路の露』『風に紅葉』『木幡のしぐれ』

【中世の日記・紀行文】

『海道記』『東関紀行』『うたゝね』『とはずがたり』『竹むきが記』

【狂言】

『天正狂言本』『虎明本狂言集』『虎清本狂言集』『狂言六義』『狂言記』

【キリシタン資料】

『天草本平家物語』『天草版伊曾保物語』『天草版金句集』『懺悔録』

[10] 造語形式

語がどのような部分要素（語構成要素）に分けて捉えられ、それぞれの要素がどのような階層的構造にあるかという語構造すなわち「語のつくり」の問題とは別に、発生論的な観点から、語がどのような造語成分から組み立てられているかという語の生産方式、すなわち「語のくみたて」（造語）の問題がある。「語のくみたて」（造語）の方式を考えるに際して、最終結合次の前項要素（ $\alpha$ ）と後項要素（ $\beta$ ）をそれぞれ一つの造語成分として捉え、それぞれの造語成分の品詞性を分類して、各形容詞の最終結合次の形式がいかなる成分同士の結びつきかを二項式 [ $\alpha + \beta$ ] で表したものを《造語形式》と呼ぶ。

以下に、 $\alpha$  に位置する造語成分と  $\beta$  に位置する造語成分とを分類して示す。

【 $\alpha$ 】

接頭辞	結合形式の 造語成分	接尾語基	自立形式の 造語成分 (単語)	重複形
カ	語基	(語基+カ)	名詞	語基の重複
ケ	名詞被覆形	(語基+キ)	動詞 (連用形)	名詞被覆形の重複
コ	動詞被覆形	(語基+ケ)	動詞 (連体形)	形容詞 (語幹) の重複
サ	形容詞 (語幹)	(語基+サ)	副詞	名詞の重複
タ	形容動詞 (語幹)	(語基+セ)		動詞 (連用形) の重複
ヒ		(語基+ネ)		副詞の重複
ヲ		(語基+マ)		
ソラ		(語基+メ)		
トコ		(語基+ツカ)		
ナマ		(語基+ツケ)		
モノ		(動詞被覆形+カ)		
		(動詞被覆形+ラ)		
		(動詞被覆形+ヤケ)		
		(形容詞 (語幹) + ツケ)		
		(動詞 (連用形) + ゲ)		
		(名詞+ゲ)		

【 $\beta$ 】

接尾辞	形容詞
シ	形容詞 (無シ以外)
ジ	無シ <sup>(注8)</sup>
ケシ	
ナシ (甚)	
ハシ	
マシ	
ガハシ	
ガマシ	

※造語形式または結合タイプが不明な形容詞については一覧から除外した。<sup>(注9)</sup>

## 【11】 結合タイプと構成単位数

結合タイプとは、語がどのような部分要素 (語構成要素) に分けて捉えられ、それぞれの要素がどのような階層的構造にあるかという語構造 (語のつくり) を記述しようとするものである。

語構造 (語のつくり) を記述するのに際して、まずはその前提となる語を構成する部分要素、すなわち語構成要素の認め方と分類を明らかにする必要がある、野村雅昭氏<sup>(注10)</sup> が語 (単語) を構成する要素について次のように定義しているの

が参考となる。

語基……語の意味的な中核となるもので、単独で、語を構成することもできる。

接辞……語基と結合して、形式的な意味をそえたり、語の品詞性（文法的意味）を決定したりする。単独では語を構成することはできない。

このように、語構成要素は【語基】と【接辞】に大別することができ、さらに【語基】は、その独立性の違いから、単独で語を組み立てることができる自立形式の要素と、単独で語を組み立てることができない結合形式の要素との二つに分けることができる。<sup>(注11)</sup> 前者のような自立形式である【語基】は、有坂秀世氏<sup>(注12)</sup>のいわゆる「名詞・動詞の露出形」（単語）に対応するものであり、後者のような結合形式である【語基】は、有坂氏の「名詞・動詞の被覆形」、乃至は「形状言」<sup>(注13)</sup>と呼ばれるものに対応するものである。

また、【接辞】は、【語基】に対する位置によって【語基】の前に付く〈接頭辞〉と後ろに付く〈接尾辞〉の二つに分けられ、語基に対する位置によって、〈接頭辞〉と〈接尾辞〉とが区別される。記述に際して、便宜的に、結合形式である【語基】を「ゴ」、自立形式である【語基】を「タ」、さらに、【接辞】は（その位置によって〈接頭辞〉と〈接尾辞〉とが区別されるので）ひとつにまとめて「セ」で表す。これに従えば、「な／し・さが／なし・ゆか／し」等の語は、（ゴ+セ）という二つの語構成要素から成り立っている2単位語ということになり、「をさ／な／し・おく／ゆか／し」などの語は、[タ+（ゴ+セ）]という三つの語構成要素から成り立っている3単位語、また、「こころ／をさ／な／し」などの語は {タ+[タ+（ゴ+セ）]}、「み／すて／がた／し」などの語は [(タ+タ)+(ゴ+セ)] という四つの語構成要素から成る4単位語ということになる。

## [12] 階層構造

階層構造とは、拙著で詳しく述べたように、成立した語形が形容詞として第一番目のものであるか、あるいは既存の形容詞に何らかの語構成要素が接合して構成された第二番目（この第二番目の形容詞にさらに別の要素が接合して構成された第三番目）のものであるかを分析したものであり、派生や複合によってどの程度自己増殖が進んでいるかを捉えようとした観点である。具体的に言うと、形容詞として成立した第一番目の語形である第一次形容詞として「なし・くるし」等があり、この第一次形容詞から構成された「をさ／なし・こころ／ぐるし」等は第二次形容詞ということになる。さらに、この第二次形容詞から構成された「こころ／をさ／なし・もの／こころ／ぐるし」等は第三次形容詞となり、対象とした資料から採取された形容詞にはこのような三段階のものが存在する。

### Ⅲ 調査に際して使用した資料

『芭蕉・蕪村発句総索引 本文索引編』<sup>(注14)</sup>

『芭蕉・蕪村発句総索引 語彙索引編』<sup>(注15)</sup>

『一茶発句総索引』<sup>(注16)</sup>

『一茶全集 第1巻 発句』<sup>(注17)</sup>

#### 【付記】

本稿は、日本学術振興会平成28-30年科学研究費補助金（基盤研究（C）、課題番号16K02746）による研究成果の一部である。

注1 [2005・11和泉書院]。元は、『大阪国際女子大学紀要』27-1 [2001・9]。拙著には、「古代語形容詞の語構成」（別表一）の他、「八代集の形容詞対照語彙表」（別表二）「中古散文作品の形容詞対照語彙表」（別表三）、「訓点資料の形容詞の語構成」（参考資料）を載せている。

注2 ①「軍記物語の形容詞対照語彙表」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』21-3 [2008・3]）、②「今昔物語集の形容詞対照語彙表一天竺・震旦部一」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』22-3 [2009・3]）、③「今昔物語集の形容詞対照語彙表一本朝仏法部一」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-1 [2009・10]）、④「今昔物語集の形容詞対照語彙表一本朝世俗部一」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-2 [2010・1]）、⑤「『形容詞対照語彙表』補遺」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-2 [2010・1]）、⑥「改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表—上代～中世編—（前編）」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』24-3 [2011・3]）、⑦「改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表—上代～中世編—（後編）」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』25-1 [2011・10]）、⑧「『時代別国語大辞典 室町時代編』の形容詞」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』25-2 [2012・1]）、⑨「『邦訳 日葡辞書』の形容詞」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』26-1 [2012・10]）、⑩「狂言の形容詞」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』27-2 [2014・1]）、⑪「キリシタン資料の形容詞」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』27-3 [2014・3]）⑫「擬古物語の形容詞」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-1 [2015・10]）、⑬「中世の日記・紀行文の形容詞」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-2 [2016・1]）

注3 『帝塚山学院大学日本文学研究』41 [2010・2]

注4 「狂言・キリシタン資料の形容詞の語構成」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-1 [2015・10]）

注5 「擬古物語および中世の日記・紀行文の形容詞の語構成」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-3 [2016・3]）

注6 「芭蕉・蕪村の俳諧の形容詞の語構成」（『大阪国際大学紀要国際研究論叢』30-2 [2017・1]）

注7 なお、「みまうし」「いはまほし」等、～まうし・～まほしの語は採らない。また、「あるべかし」を一形容詞とする見方も存在するが、ひとまず措くことにする。

注8 「無シ」を特立した理由は、これを後項要素とするものが際立って多いこともさることながら、「無シ」が他の語のようにある特定の概念を示すものではないという点で、ひとまず他のク活用形容詞と区別している。

注9 従来からの分析で不明と判断されたものとしては、「あぶなし」（『保元物語』『平家物語』『虎明本狂言集』『狂言六義』『狂言記』）がある（かっこ内は出現した作品を示す）。

注10 野村雅昭氏「造語法」（『岩波講座日本語』9 [1977・6、岩波書店]）

注11 ここで言うa自立形式である【語基】およびb結合形式である【語基】は、阪倉篤義氏『語構成の研究』で言うところの「本来自立の用法を有する単語」および「これに準ずる言語単位」にほぼ相当する。さらには、aおよびbは、蜂矢真郷氏「語構成と形状言」（『語文』65 [1996・2]）

国際研究論叢

- および『国語重複語の語構成論的研究』[1998・4、塙書房]で言うところの、「独立的要素」および「準独立的要素」に当り、そして、【接辞】は「非独立的要素」に当る。
- 注12 『国語音韻史の研究』増補新版「国語にあらはれる一種の母音交替について」および「母音交替について」[1957・10、三省堂]
- 注13 川端善明氏『活用の研究』I [1978・3、大修館書店]序説、同書II [1979・2]第2部第1章～第4章
- 注14 道本武彦・谷地快一著 [1983・1、角川書店]
- 注15 道本武彦・谷地快一著 [1983・1、角川書店]
- 注16 滝澤貞夫・二澤久昭・梅原恭則・矢羽勝幸・戸谷精三編 [1994・11、信濃毎日新聞社]
- 注17 信濃教育会編 [1979・8、信濃毎日新聞社]

芭蕉・蕪村・一茶の俳諧の形容詞の語構成

NO.	見出し語	新出	活用	漢字	芭蕉 出現数	蕪村 出現数	一茶 出現数	上 代	八 代	中 古	訓 点	今 昔	軍 記	機 古	日 記	狂 言	キ リ	造語形式	結合タイプ	構成 単位数	階層 構造
1	あかし		ク	赤	2	4													(ゴ+セ)	2	第一次
2	あかるし	一茶	ク	明			10												(タ+セ)	2	第一次
3	あけやすし		ク	明易			5												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
4	あさし		ク	浅		3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		(ゴ+セ)	2	第一次
5	あさまし		シク	浅		5	10												(ゴ+セ)	2	第一次
6	あし		シク	悪		2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		(ゴ+セ)	2	第一次
7	あせくさし	一茶	ク	汗臭			1												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
8	あだやかまし	一茶	シク	直			2												[タ+(タ+セ)]	3	第二次
9	あたらし		シク	新	1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		(ゴ+セ)	2	第一次
10	あぢきなし		ク	味気無		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		[(ゴ+セ)+セ]	3	第一次
11	あつかまし	一茶	シク	厚			1												(ゴ+セ)	2	第一次
12	あっけなし	一茶	ク	呆気無			3												(タ+セ)	2	第一次
13	あつし		ク	厚・敦	1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		(ゴ+セ)	2	第一次
14	あつし		ク	暑・熱	4	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		(ゴ+セ)	2	第一次
15	あないがまし	一茶	シク	案内			2												(タ+セ)	2	第一次
16	あはあはし		シク	淡淡			1			○									[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第一次
17	あひてがまし	一茶	シク	相手			1												(タ+セ)	2	第一次
18	あやし		ク	甘			9			○	○	○	○	○	○	○	○		(ゴ+セ)	2	第一次
19	あやし		シク	靈異・奇・怪			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		(ゴ+セ)	2	第一次
20	あゆみにくし	一茶	ク	歩難			1												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
21	あらためがたし		ク	改難			1			○									[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
22	ありがたし		ク	有難	1	1				○									[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
23	あるきにくし	一茶	ク	歩難			1			○									[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
24	あるきよし	一茶	ク	歩行良			1												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
25	あわたたし		シク	慌			1			○									[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第一次
26	あをくさし	一茶	ク	青臭			2												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
27	あをし		ク	青	3	1	23	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		(ゴ+セ)	2	第一次
28	いかし		シク	蔽			3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		(ゴ+セ)	2	第一次
29	いかめし		シク	蔽	1		2												[(ゴ+タ)+セ]	3	第一次
30	いさよよし		ク	潔			2	○			○								[ゴ+(ゴ+セ)]	3	第二次
31	いさまし		シク	勇			3			○									(ゴ+セ)	2	第一次
32	いさをし		シク	功・強功			1			○									(タ+セ)	2	第一次
33	いそがし		シク	忙			14			○									(ゴ+セ)	2	第一次

NO.	見出し語	新出	活用	漢字	芭蕉 出現数	蕪村 出現数	一茶 出現数	上 八 代	中 古	訓 点	今 昔	軍 記	日 記	狂 言	キ リ	造語形式	結合タイプ	構成 單位数	階層 構造
34	いぢらし	一茶	シク	意地			1									名詞+ラシ	(タ+セ)	2	第一次
35	いとし		シク	愛			4									語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
36	いとまなし		ク	暇無	1			〇	〇	〇	〇	〇	〇			名詞+無シ	[(タ+タ)+(ゴ+セ)]	4	第二次
37	いはけなし		ク	忌忌	2											動詞(連用形)+ナシ	(タ+セ)	2	第一次
38	いまいまし		シク	賤・卑			6									語基の重複+シ	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第一次
39	いやし		シク	賤・卑	2		4	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
40	うやおさし	蕪村	シク	魚臭	1											名詞+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
41	うし		ク	憂	5		11	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
42	うすあかし	一茶	ク	薄赤	1											形容詞(語幹)+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
43	うすあつし	一茶	ク	薄暑	1											形容詞(語幹)+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
44	うすあまし	一茶	ク	薄甘	1											形容詞(語幹)+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
45	うすぐらし	一茶	ク	薄暗	1											形容詞(語幹)+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
46	うすし		ク	薄	2		4	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
47	うそさむし	一茶	ク	寒	7											ウソ+形容詞	[(セ+(ゴ+セ))]	3	第二次
48	うつくし		シク	愛・美	2		49	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
49	うつつなし		ク	現無	3											名詞+無シ	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
50	うっとし	一茶	シク	鬱陶			3									形容詞(語幹)+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
51	うとし		ク	疎	2			〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
52	うとまし		シク	疎	3			〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
53	うまし		ク	旨・甘・美・味旨			8	〇								語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
54	うらみなし	蕪村	ク	恨無	1											動詞(連用形)+無シ	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
55	うらやまし		シク	羨	1			〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
56	うるさし		シク	煩			8									(語基+サ)+シ	[(ゴ+セ)+セ]	3	第一次
57	うれし		シク	嬉・歡	1		22	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
58	えきなし	一茶	ク	益無			1									名詞+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
59	えそらごとなし	蕪村	ク	絵空事無	1											名詞+無シ	[(タ+(タ+タ)+(ゴ+セ))]	5	第二次
60	おごりがまし	一茶	シク	奢	2		8	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	動詞連用形+ガマシ	(タ+セ)	2	第一次
61	おそし		ク	遅・鈍	1		5	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
62	おそろし		シク	恐	1		4	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
63	おとなし		ク	音無	7		11									名詞+無シ	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
64	おどろきやすし	蕪村	ク	驚易	1											動詞(連用形)+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
65	おなじ	一茶	シク	同	1		66	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	語基+ジ	(ゴ+セ)	2	第一次
66	おほきし	一茶	ク	大	2											形容詞(語幹)+シ	(ゴ+セ)	2	第一次

芭蕉・燕村・一茶の俳諧の形容詞の語構成

NO.	見出し語	新出	活用	漢字	芭蕉 出現数	燕村 出現数	一茶 出現数	上 代	八 代	中 古	訓 点	今 昔	軍 記	擬 古	日 記	狂 言	キ リ	造語形式	結合タイプ	構成 単位数	階層 構造
67	おほけなし		ク				1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(語基+ケ)+ナシ	[(ゴ+セ)+セ]	3	第一次
68	おほし		ク	多・大		3	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
69	おほし		シク	思			1											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
70	おほそし	芭蕉	ク	尾細	1													名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
71	おほわかなし		ク	寛東無	1	3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(語基+ツカ)+ナシ	[(ゴ+セ)+セ]	3	第一次
72	おもしろし		ク	重	1	3	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	名詞+形容詞	(ゴ+セ)	2	第二次
73	おもしろし		ク	面白	6	3	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
74	おもたし		ク	重		4												形容詞(語幹)+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
75	かいたるし	一茶	ク	腕怠			1											名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
76	かうばし		シク	香		2				○	○	○	○	○	○	○	○	名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
77	かくはし		シク	香		2		○										名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
78	かくれよし	燕村	ク	隠良	1													動詞(連用形)+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
79	かごとがまし		シク	託言		1				○	○	○	○	○	○	○	○	動詞(連用形)+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
80	かしこし		ク	恐・畏・賢		9	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
81	かしまし		シク	器姦		2	6			○	○	○	○	○	○	○	○	(語基+マ)+シ	[(ゴ+セ)+セ]	3	第一次
82	かたし		ク	固・堅			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
83	かたづけがたし	一茶	ク	片付難		1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	動詞(連用形)+形容詞	[(ゴ+タ)+(ゴ+セ)]	4	第二次
84	かなし		シク	悲・哀・愛	4	1												語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
85	かはいらし	一茶	シク	可愛			1											形容詞(語幹)+ラシ	[(タ+ゴ)+セ]	3	第一次
86	かはゆし		ク	可愛			2			○	○	○	○	○	○	○	○	名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
87	かはゆらし	一茶	シク	可愛			1											形容詞(語幹)+ラシ	(ゴ+セ)	2	第一次
88	かひなし		ク	甲斐無			2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	名詞+無シ	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
89	かゆし		ク	癩・癢痒			3	○										語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
90	かよわし		ク	弱			1			○	○	○	○	○	○	○	○	カ+形容詞	[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
91	からし		ク	辛・鹹・酷	1	3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
92	かるし		ク	軽			5	○		○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
93	かるし		ク	軽	2	3	1			○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
94	きたなし		ク	汚穢・濁・穢汚			10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+ナシ	(ゴ+セ)	2	第一次
95	きつよし	一茶	ク	気強			1											名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
96	きなくさし	一茶	ク	衣臭or臭			1											名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
97	きびし		シク	厳・密厳			1			○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
98	きゃらくさし	燕村	ク	伽羅臭		1												名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
99	きよし		ク	清	3	1	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次

國際研究論叢

NO.	見出し語	新出	活用	漢字	芭蕉 出現数	蕪村 出現数	一茶 出現数	上 代	八 代	中 古	訓 点	今 昔	軍 記	日 記	狂 言	キ リ	造語形式	結合タイプ	構成 単位数	階層 構造
100	きりふかし	蕪村	ク	霧深		2												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
101	くさし		ク	臭			1		〇	〇	〇			〇		〇		(ゴ+セ)	2	第一次
102	くちさびし	一茶	シク	口淋			2											[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
103	くぼし		ク	窪	1								〇		〇			(ゴ+セ)	2	第一次
104	くやし		シク	旗			4	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		〇		(ゴ+セ)	2	第一次
105	くらし		ク	癖	3	4	16	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		[タ+(ゴ+セ)]	2	第二次
106	くらしよし	一茶	ク	暮良			1											[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
107	くらし		シク	苦	1			〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		(ゴ+セ)	2	第一次
108	くれおとし	一茶	ク	暮遅	4	1	10	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
109	くろし		ク	黒			1											(ゴ+セ)	2	第一次
110	けうとし	一茶	ク	気疎	1					〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
111	けうとし	一茶	シク	喚			1											(ゴ+セ)	2	第一次
112	けはし		シク	煙			1		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		[(ゴ+ゴ)+セ]	2	第一次
113	けふし	一茶	シク	煙			1											(ゴ+セ)	2	第一次
114	けぶたし		ク	煙甚・烟甚煙			4		〇					〇				[ゴ+(ゴ+セ)]	3	第二次
115	けむつかし	一茶	シク	気難	1					〇								[セ+[(ゴ+セ)+セ]]	4	第二次
116	こあさし	一茶	赤				1											[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
117	ころうさし	一茶	ク	煩			3											[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
118	こえなし	蕪村	ク	声無	1													[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
119	こえふかし	蕪村	ク	声深	1													[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
120	こころにくし		ク	心憎			2			〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
121	こざかし	一茶	シク	小賢			1											[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
122	こざびし	一茶	シク	淋			4											[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
123	こさむし	一茶	ク	寒			1											[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
124	こし		ク	濃	2	4	4	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		(ゴ+セ)	2	第一次
125	こぜはし	一茶	シク	忙			1											[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
126	ことごとし		シク	事事			1		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		[(タ+タ)+セ]	3	第一次
127	こながし	一茶	ク	長	1													[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
128	このくし	一茶	シク	憎	1					〇								[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
129	このまし		シク	好	1				〇					〇				(ゴ+セ)	2	第一次
130	こほし		ク	強	1		1	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		(ゴ+セ)	2	第一次
131	こばやし	一茶	ク	早			6											[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
132	こひし		シク	恋	3	1	8	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		(ゴ+セ)	2	第一次

芭蕉・蕪村・一茶の俳諧の形容詞の語構成

NO.	見出し語	新出	活用	漢字	芭蕉 出現数	蕪村 出現数	一茶 出現数	上 代	八 代	中 古	訓 点	今 昔	軍 記	擬 古	日 記	狂 言	キ リ	造語形式	結合タイプ	構成 単位数	階層 構造
133	こぶかし		ク	木深	1	1				○				○				名詞被覆形+形容詞	[ゴ+(ゴ+セ)]	3	第二次
134	こみじかし	一茶	ク	短			1											コ+形容詞	[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
135	さうざうし		シク		1		1			○				○				語基の重複+シ	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第一次
136	さくし	一茶	ク				1											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
137	さけくさし	芭・一	ク	酒臭	1		5											名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
138	さしでがまし	一茶	シク	差出	1		1											動詞(連用形)+ガマシ	[(セ+タ)+セ]	3	第二次
139	さだめなし	一茶	シク	定無	1				○					○				動詞(連用形)+無シ	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
140	さはさはし	一茶	シク	颯颯			2											語基の重複+シ	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第一次
141	さびし		シク	寂・淋	4	4	28	○	○	○				○	○	○	○	動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
142	さむげし		ク	寒			1		○									形容詞(語幹)+ケシ	(ゴ+セ)	2	第一次
143	さむし		ク	寒	10	22	94	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
144	さわがし		シク	騒			7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
145	しげし		ク	繁・茂茂			1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
146	したし		シク	親	2		1			○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
147	したはし		シク	慕			3							○				動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
148	しづげし		ク	静	1		2	○	○	○							○	(語基+ケ)+シ	[(ゴ+セ)+セ]	3	第一次
149	しつこし	一茶	ク	執固			1											名詞+シ	(タ+セ)	2	第一次
150	しはし	一茶	ク	吝			1											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
151	しはすらし	一茶	シク	師走			1											名詞+ラシ	(タ+セ)	2	第一次
152	しぶし		ク	渋			5	○			○							語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
153	しぶとし	一茶	ク	蝸太			2											語基+形容詞	[ゴ+(ゴ+セ)]	3	第二次
154	しほからし		ク	塩辛			1					○						名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
155	しほらし		シク	萎	1	1	4									○		動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
156	しめっぱい	一茶	ク	湿			1											動詞(連用形)+ポイ	(タ+セ)	2	第一次
157	しゃうもなし	一茶	ク	仕様無			2											名詞+無シ	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
158	しゅびよし	一茶	ク	首尾良			2											名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
159	しるし		ク	知・灼・著	1		1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
160	しろし		ク	白	10	23	22	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
161	しんぼよし	一茶	ク	辛抱強			1											名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
162	すがすがし		シク	清清			1	○		○					○			形容詞(語幹)の重複+シ	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第一次
163	すくなし		ク	少			3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+ナシ	(ゴ+セ)	2	第一次
164	すげなし		ク		1				○	○	○	○	○	○	○	○	○	語基+ナシ	(ゴ+セ)	2	第一次
165	すごし		ク	渡	2	1			○	○				○	○	○	○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次

NO.	見出し語	新出	活用	漢字	芭蕉 出現数	蕪村 出現数	一茶 出現数	上 代	八 代	中 古	訓 点	今 昔	軍 記	擬 古	日 記	狂 言	キ リ	造語形式	結合タイプ	構成 單位数	階層 構造
166	すさまし		シク	凄冷	1														(ゴ+セ)	2	第一次
167	すし		ク	酸			1												(ゴ+セ)	2	第一次
168	すすくさし	一茶	ク	煤臭			5												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
169	すずし		シク	冷・涼	6	2	47												(ゴ+セ)	2	第一次
170	すみづらし	一茶	ク	住辛			1												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
171	すみょうことなし	一茶	ク	為事無			6												[(タ+タ)+(ゴ+セ)]	4	第二次
172	せうべんくさし	一茶	ク	小便臭			1												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
173	せばし		ク	狭			5												(ゴ+セ)	2	第一次
174	せはしなし	一茶	ク	忙忙			6												[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第一次
175	そさうがまし	蕪村	シク	鹿相・粗相・疎相	1														(タ+セ)	2	第二次
176	たかし		ク	高	1	9	11												(ゴ+セ)	2	第一次
177	たくまし		シク	快・逞			1												(ゴ+セ)	2	第一次
178	たけし		ク	武・猛猛			1												(ゴ+セ)	2	第一次
179	たしなし	一茶	ク	足無・困			3												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
180	ただし		シク	正			1												(ゴ+セ)	2	第一次
181	ただひろし	一茶	ク	広			1												[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
182	たちやすし		ク	立易			1												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
183	たのし		シク	楽			2												(ゴ+セ)	2	第一次
184	たのもし		シク	頼	2	4	12												(ゴ+セ)	2	第一次
185	たふとし		ク	貴・尊			9												[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
186	たやすし		ク	輒・容易			2												[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
187	たよりなし		ク	便無			1												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
188	だるし	一茶	ク	弛			1												(ゴ+セ)	2	第一次
189	たわいなし	一茶	ク	弛			1												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
190	ちかし		ク	近	5	12	13												(ゴ+セ)	2	第一次
191	ちちむさし	一茶	ク	笨穢			1												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
192	ちひさし		ク	小	1	4	34												(ゴ+セ)	2	第一次
193	ついでがまし	蕪村	シク	序			1												(タ+セ)	2	第二次
194	つきぎし		シク	付付			1												[(タ+タ)+セ]	3	第二次
195	つきよがまし	一茶	シク	月夜			1												(タ+セ)	2	第一次
196	つたなし		ク	杖・拙拙			7												(ゴ+セ)	2	第一次
197	つつがなし		ク	無恙・無事			1												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
198	つつまし		シク	慎			1												(ゴ+セ)	2	第一次

芭蕉・蕪村・一茶の俳諧の形容詞の語構成

NO.	見出し語	新出	活用	漢字	芭蕉 出現数	蕪村 出現数	一茶 出現数	上 代	八 代	中 古	訓 点	今 昔	軍 記	擬 古	日 記	狂 言	キ リ	造語形式	結合タイプ	構成 単位数	階層 構造
199	つめたし		ク	冷			3			○	○	○	○			○		名詞被覆形+形容詞	[ゴ+(ゴ+セ)]	3	第二次
200	つやつやし	一茶	シク	艶艶			1											名詞の重複+シ	[(タ+タ)+セ]	3	第一次
201	つゆけし	一茶	ク	露			2		○	○	○	○	○					名詞+ケシ	(タ+セ)	2	第一次
202	つゆつゆし	一茶	シク	露露			2											名詞の重複+シ	[(タ+タ)+セ]	3	第一次
203	つよし	一茶	ク	強			3		○	○	○	○	○				○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
204	つらし	一茶	ク	辛			2		○	○	○	○	○				○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
205	つらしくし	一茶	ク	面憎			1											名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
206	つれなし	一茶	ク	無情	1		2		○	○	○	○	○				○	名詞+無シ	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
207	でかし	一茶	ク	大			8											語基+シ(イ)	(ゴ+セ)	2	第一次
208	てごはし	一茶	ク	手強			1						○					名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
209	てばかし	一茶	シク	手敏捷			4											名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
210	てばやし	一茶	ク	手早			1											名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
211	てらくさし	一茶	ク	寺臭			1											名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
212	とがとがし	一茶	シク	咎咎			2		○									名詞の重複+シ	[(タ+タ)+セ]	3	第一次
213	どくどくし	一茶	シク	毒毒			1											名詞の重複+シ	[(タ+タ)+セ]	3	第一次
214	とし	一茶	ク	利・敵・疾疾			18		○	○	○	○	○				○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
215	とほし	一茶	ク	遠	1	34	13		○	○	○	○	○				○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
216	ともし	一茶	シク	乏			1		○	○	○	○	○				○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
217	ながし	一茶	ク	長			7		○	○	○	○	○				○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
218	なかよし	一茶	ク	仲良			1		○									名詞+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
219	なし	一茶	ク	無	22	72	425		○	○	○	○	○				○	語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
220	なつかし	一茶	シク	懐	2	13	19		○	○	○	○	○				○	動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
221	なにとなし	一茶	ク	何無			1											副詞+無シ	[タ+(ゴ+セ)]	2	第二次
222	なほし	一茶	ク	直			2											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第二次
223	なまあつし	一茶	ク	生暑			2											ナマ+形容詞	[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
224	なまおもしろし	一茶	ク	生面白			2											ナマ+形容詞	[セ+(ゴ+セ)]	4	第三次
225	なまぐさし	一茶	ク	生臭	1		1											ナマ+形容詞	[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
226	なまわかし	一茶	ク	生若			1											ナマ+形容詞	[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次
227	なみなし	蕪村	ク	波無			1											名詞+無シ	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
228	なれやし	一茶	ク	馴易			1											動詞(連用形)+形容詞	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
229	なんなし	一茶	ク	難無			3		○									名詞+無シ	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
230	にあはし	一茶	シク	似合			1											動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
231	にがし	一茶	ク	苦	2		3											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次

國語研究論叢

NO.	見出し語	新出	活用	漢字	芭蕉 出現数	蕉村 出現数	一茶 出現数	上 代	八 代	中 古	訓 点	今 昔	軍 記	擬 古	日 記	狂 言	キ リ	造語形式	結合タイプ	構成 単位数	階層 構造
232	にぎはし	一茶	シク	賑			10											動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
233	にくし	一茶	ク	憎	1	2	7	○	○	○								語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
234	にくにくし	一茶	ク	憎憎			1											形容詞(語幹)の重複+シ	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第一次
235	にくらし	一茶	シク				1											形容詞(語幹)+ラシ	(ゴ+セ)	2	第一次
236	ぬくし	芭一	ク	温・暖	1		2											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
237	ぬくとし	一茶	ク	温疾			1											形容詞(語幹)+形容詞	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第二次
238	ぬくなし	一茶	ク	温無			1											形容詞(語幹)+無シ	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第二次
239	ねぐるし	蕉村	シク	寝	1	1												動詞(連用形)+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
240	ねむし		ク	眠	1		1										○	動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
241	ねよし	一茶	ク	寝良			3											動詞(連用形)+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
242	のとけし		ク	長閑			10		○	○								(語基+ケ)+シ	[(ゴ+セ)+セ]	3	第一次
243	はかながし	一茶	ク	馬鹿長			4											形容詞(語幹)+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
244	はかなし	一茶	ク		1				○	○								名詞+無シ	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
245	はかばかし	一茶	シク	馬鹿馬鹿			1											形容詞(語幹)の重複+シ	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第一次
246	ばかりし	一茶	シク	馬鹿		2	4											形容詞(語幹)+ラシ	(ゴ+セ)	2	第一次
247	はしたなし		ク	端						○								形容詞(語幹)+ナシ	(ゴ+セ)	2	第一次
248	はださむし		ク	肌寒			3		○	○								名詞+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
249	はつかし		シク	恥		1	26	○	○	○								(動詞被覆形+カ)+シ	[(ゴ+セ)+セ]	3	第二次
250	はなれづらし	一茶	ク	離辛			1											動詞(連用形)+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
251	はなれにくし		ク	離憎			1											動詞(連用形)+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
252	はやし		ク	早・速	4	6	15	○	○	○								語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
253	はらあし		シク	腹悪	3		3											名詞+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
254	ひさし		ク	低	8		6											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
255	ひさし		シク	久			3	○	○	○								語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
256	ひだるし		ク		1	2												ヒ+形容詞	[(セ+(ゴ+セ))]	3	第二次
257	ひつつきやすし	一茶	ク	引付易			1											動詞(連用形)+形容詞	[(セ+タ)+(ゴ+セ)]	4	第二次
258	ひとがまし	一茶	シク	人			1											名詞+ガマシ	(タ+セ)	2	第一次
259	ひとくさし	一茶	ク	人臭			1											名詞+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))]	3	第二次
260	ひとし	一茶	シク	等・斉等			3	○	○	○								語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
261	ひとらし	一茶	シク	人			1											名詞+ラシ	(タ+セ)	2	第一次
262	ひやし	一茶	ク	冷			1											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
263	ひやっこし	一茶	ク	冷			1											語基+コイ	(ゴ+セ)	2	第一次
264	ひょろながし	一茶	ク	長			1											語基+形容詞	[(ゴ+(ゴ+セ))]	3	第二次

芭蕉・蕪村・一茶の俳諧の形容詞の語構成

NO.	見出し語	新出	活用	漢字	芭蕉 出現数	蕪村 出現数	一茶 出現数	上 代	八 代	中 古	訓 点	今 昔	軍 記	擬 古	日 記	狂 言	キ リ	造語形式	結合タイプ	構成 単位数	階層 構造
265	ひらたし	一茶	ク	平			2											形容動詞(語幹)+形容詞	[(ゴ+セ)+セ]	3	第二次
266	ひろし		ク	広			2											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
267	びんなし		ク	便無			1											名詞+無シ	[(タ+(ゴ+セ))+セ]	3	第二次
268	びんぼらし	一茶	シク	貧乏			1											名詞+ラシ	(タ+セ)	2	第一次
269	ふかし		ク	深	2	4	7											動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
270	ふがひなし	一茶	ク	附甲斐無			2											名詞+ナシ	(タ+セ)	2	第一次
271	ふくぶくし	一茶	シク	福			1											名詞の重複+シ	[(タ+タ)+セ]	3	第一次
272	ぶつぶつをし	一茶	シク	惜			1											副詞+形容詞	[(ゴ+ゴ)+(ゴ+セ)]	4	第二次
273	ふてぶてし	一茶	シク	太太			1											形容詞(語幹)の重複+シ	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第一次
274	ふるし		ク	古・旧	3	8	32											動詞被覆形+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
275	ふるめかし		シク	古			1											動詞被覆形+シ	[(ゴ+セ)+セ]	3	第一次
276	ほし		シク	欲			14											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
277	ほそし		ク	細	1	6	8											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
278	ほそながし		ク	細長			7											形容詞(語幹)+形容詞	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第二次
279	ほねっぼい	一茶	ク	骨			1											名詞+ボイ	(タ+セ)	2	第一次
280	ほろにがし	一茶	ク	苦			1											ホロ+形容詞	[(セ+(ゴ+セ))+セ]	3	第二次
281	まぎらはし		シク	紛	1													動詞被覆形+ハシ	(ゴ+セ)	2	第一次
282	まことがまし	蕪村	シク				1											名詞+ガマシ	(タ+セ)	2	第一次
283	まちどほし	一茶	シク	待遠			1											形容動詞(語幹)+シ	[(タ+ゴ)+セ]	3	第二次
284	まづし		シク	貧・貧窮	1	5	2											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
285	まばゆし		ク	目映・眩			1											名詞被覆形+形容詞	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第二次
286	まるし		ク	丸			1											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
287	みがるし	一茶	ク	身軽			1											名詞+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))+セ]	3	第二次
288	みじかし		ク	短			10											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
289	みずぼらし	一茶	シク	身窄			3											形容詞(語幹)+ラシ	(ゴ+セ)	2	第一次
290	みづくさし		ク	水			1											名詞+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))+セ]	3	第二次
291	みづみづし	一茶	シク	瑞			1											名詞の重複+シ	[(タ+タ)+セ]	3	第一次
292	みなどがまし	蕪村	シク	漆			1											名詞+ガマシ	(タ+セ)	2	第二次
293	みみょうとし	蕪村	ク	耳疎			2											名詞+形容詞	[(タ+(ゴ+セ))+セ]	3	第二次
294	みみなし	一茶	ク	耳無			1											名詞+無シ	[(タ+(ゴ+セ))+セ]	3	第二次
295	むくつけし		ク				2											(語基+ツケ)+シ	[(ゴ+セ)+セ]	3	第一次
296	むごし	一茶	ク	慘・酷			2											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次
297	むさし	一茶	ク	穢			11											語基+シ	(ゴ+セ)	2	第一次

NO.	見出し語	新出	活用	漢字	芭蕉 出現数	蕪村 出現数	一茶 出現数	上 八 代	中 古	訓 点	今 昔	軍 記	擬 古	日 記	狂 言	キ リ	造語形式	結合タイプ	構成 単位数	階層 構造
298	むつかし		シク	難			32		○	○	○	○	○	○	○	○	[(ゴ+セ)+セ]	3	第一次	
299	むつまじ		シク	親・睦			14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(ゴ+セ)	2	第一次	
300	むなし		シク	空・虚空			6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(ゴ+セ)	2	第一次	
301	めいしよがまし	一茶	シク	名所			1										(タ+セ)	2	第一次	
302	めざとし		ク	目敏・目聡			1		○								[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
303	めづらし		シク	珍	1	1	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	[(ゴ+セ)+セ]	3	第二次	
304	めでたし		ク	愛	2	5	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	[(ゴ+セ)+セ]	3	第二次	
305	めんばくなし		ク	面目無	1	1			○								[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
306	もったいなし	一茶	ク	勿体			9										(タ+セ)	2	第一次	
307	もどかし		シク	擬・抵悟	1	1	1	○	○			○	○	○			(ゴ+セ)	2	第一次	
308	ものしりがまし	一茶	シク	物願	1	1			○	○	○	○	○	○			[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
309	ものしりがまし	一茶	シク	物知	1	1											(タ+セ)	2	第一次	
310	ものしりらし	一茶	シク	物知	1	1											(タ+セ)	2	第一次	
311	ものどほし		ク	物遠	1	1			○				○				[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
312	ものほし		シク	物欲	1	1								○			[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
313	ものものし		シク	物物	1	1	1		○								[(タ+タ)+セ]	3	第一次	
314	ものゆかし		シク	物物	1	1			○								[セ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
315	もろし		ク	施	2	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(ゴ+セ)	2	第一次	
316	もんなし	蕪村	ク	門無	1	1											[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
317	やかまし	一茶	シク	喧			4										(タ+セ)	2	第一次	
318	やさし		シク	恥・優	1	1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(ゴ+セ)	2	第一次	
319	やすし		ク	安・易	1	1	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(ゴ+セ)	2	第一次	
320	やまなし	蕪村	ク	山無	1	1											[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
321	やまみずくさし	一茶	ク	山水臭	1	1	1										[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
322	やむことなし		ク	止事無	1	1			○	○	○	○	○	○	○	○	[(タ+タ)+(ゴ+セ)]	4	第二次	
323	ゆかし		シク		3	9	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(ゴ+セ)	2	第一次	
324	ゆきよし	一茶	ク	行良			1										[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
325	ゆふすずし	一茶	シク	夕涼			1										[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
326	ゆゆし	一茶	シク	齋忌・忌	3	3	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第二次	
327	ようれやしなし	一茶	ク	容赦無			2										[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
328	よくだし	一茶	シク	欲	1	1	1										[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
329	よさむし	一茶	ク	夜寒	6	25	143	○	○	○	○	○	○	○	○	○	[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次	
330	よし		ク	良・好・善				○	○	○	○	○	○	○	○	○	(ゴ+セ)	2	第一次	

芭蕉・燕村・一茶の俳諧の形容詞の語構成

NO.	見出し語	新出	活用	漢字	芭蕉 出現数	燕村 出現数	一茶 出現数	上 代	八 代	中 古	訓 点	今 昔	軍 記	擬 古	日 記	狂 言	キ リ	造語形式	結合タイプ	構成 単位数	階層 構造
331	よしなし		ク	由無			4				○	○	○	○	○		○		[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
332	よろこばし		シク	喜・悦喜			2			○	○	○	○	○					(ゴ+セ)	2	第一次
333	よろし		シク	宜	1			○		○	○	○	○	○			○		(ゴ+セ)	2	第一次
334	よんどころなし	一茶	ク	拠所無			4												[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
335	わかあかし	一茶	ク	若赤			1												[ゴ+(ゴ+セ)]	3	第二次
336	わかし		ク	若		1	48	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		(ゴ+セ)	2	第一次
337	わかわかし		シク	若若			3	○	○	○									[(ゴ+ゴ)+セ]	3	第一次
338	わびし		シク	化		4		○	○	○									(ゴ+セ)	2	第一次
339	わりなし		ク	理無	1	1			○	○	○	○	○	○			○		[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
340	わるあかし	一茶	ク	悪赤			2												[ゴ+(ゴ+セ)]	3	第二次
341	わるくさし	一茶	ク	悪臭			1												[ゴ+(ゴ+セ)]	3	第二次
342	わるねむし	一茶	ク	悪眠			1												[ゴ+(ゴ+セ)]	3	第二次
343	わろし		ク	悪			4		○	○	○	○	○	○			○		(ゴ+セ)	2	第二次
344	をかし		シク	可笑・可笑	2		4		○	○	○	○	○	○			○		(ゴ+セ)	2	第一次
345	をさなし		ク	幼	1	1			○	○	○	○	○	○			○		[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次
346	をし		シク	惜・愛惜			5	○	○	○	○	○	○	○			○		(ゴ+セ)	2	第一次
347	をりあし		シク	折悪		1				○									[タ+(ゴ+セ)]	3	第二次

